

令和元年度 学校評価報告書（総表）

令和 2 年 5 月 14 日

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属高等学校	校長名	大川 一郎
幼児・児童・生徒数	709	学級数	18

2 教育目標等	
① 学校教育目標	<p>(1) 自主・自律・自由をモットーとする。</p> <p>(2) 全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育、徳育、体育の調和をはかる。</p> <p>(3) 教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期する。</p> <p>(4) 特別教育活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。</p> <p>(5) 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題の解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。</p>
② 学校経営方針	<p>(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等にのっとり、また本校の学校教育目標を達成するべく学校運営をすすめる。</p> <p>(2) 筑波大学の附属学校として教育実習や教員免許状更新講習等に協力し、また、先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点の3つの拠点構想の実現をはかるよう教育・研究活動を推進する。</p> <p>(3) 全教員の積極的な参加と協力によって学校運営を行うことにつとめる。</p> <p>(4) 学校運営に、保護者・地域住民の参加・協力を求める手立てを検討する。</p>
③ 重点目標	<p>(1) 新たな大学入試制度への対応、新教育課程の検討</p> <p>(2) 中長期的な校内の施設設備及び財政運営の検討</p> <p>(3) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減</p> <p>(4) 教育活動の外部への発信</p> <p>(5) キャリア教育の充実</p> <p>(6) 保護者・地域住民との連携の強化</p> <p>(7) 情報セキュリティの強化</p>
④ 前年度（平成 30 年度）の成果と課題	<p>(1) SGH 最終年度として、従前の取り組みを継続するとともに5年間の研究成果をまとめた。</p> <p>(2) お茶の水女子大学附属高等学校と連携してのキャリア教育の開発及び実践を継続した。</p> <p>(3) 危機管理体制の点検と改定を行った。</p> <p>(4) 中長期的な校内の施設設備の維持管理・更新と、そのための財政的裏付けに関する検討は急務である。</p> <p>(5) 「働き方改革」への対応が必要である。</p> <p>(6) 教育活動に関わっては</p> <p>ア 新たな大学入試制度・新教育課程などへの対応</p> <p>イ 本校の教育活動の外部への発信</p> <p>などが継続的な課題となっている。</p>

3 重点目標達成についての総括的評価

- (1) 新たな大学入試制度については学年と教科が中心となり情報収集や生徒への指導を行った。新教育課程についてはカリキュラム委員会が精力的に活動を継続した。
- (2) 保護者からいただいている教育環境改善経費を用いた施設設備更新の中期計画を立て、更新を開始した。
- (3) 教員の勤務状況把握や UTOS の全面的使用などを進めたが scrap は十分にできなかった。
- (4) 入試広報部及び管理職による校外での広報活動を広げたが HP の改善は十分にできなかった。
- (5) お茶の水女子大学附属高校との合同キャリア教育プログラムを改善した。
- (6) PTA から学校運営についてアドバイスを受けるなど関係を深め、後援会についても保護者と協力した。
- (7) 教育活動に関するデータを UTOS に置くなどの取り組みは行ってきたが、情報管理に関わる大きな問題を発生させてしまい、基本的な情報管理・情報倫理の不十分さが露呈した。

以上、重点目標にきちんと取り組むことができたが、その成果が十分とは言えず、(7) のように大きな課題を翌年以降に残したものもあった。

4 令和2年度の学校課題

- (1) 情報セキュリティの強化
- (2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討
- (3) 教育活動の外部への発信
- (4) 中長期的な校内の施設設備及び財政運営の検討
- (5) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減
- (6) 保護者・地域住民との連携の強化
- (7) キャリア教育の充実

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 校務支援システムを導入し個人情報の管理を厳格化する。情報セキュリティに関する研修会を実施する。
- (2)・(4) 若手教員中心の将来構想委員会を継続的に開き、中長期的な本校のビジョンについて検討する。
- (3) HP を充実させるとともに、個々の教員、教科等に全附属・学会・研究会等を通じた対外的な発信を奨励する。
- (5) 入学試験のウェブ出願システム及び校務支援システムを導入する。中長期的な「仕事の最適化」についても総務部及び将来構想委員会で検討する。
- (6) 前年度末に発足した後援会会則等検討委員会による、後援会の活性化と後援会による学校への財政的支援に関する検討に協力する。
- (7) お茶の水女子大学附属高校との合同キャリアプログラムについて PDCA サイクルを進めより拡充していく。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- (1) 『筑波大学附属高等学校研究紀要 第61巻』
- (2) 『令和元年度海外研修報告書』（「13th Hwa Chong Asia-Pacific Young Leaders Summit 2019」「第10回（2019年度）国際学術シンポジウム報告書」「University of Prince Edward Island 研修 2019」「日中高校生交流報告書」「筑波大学附属高等学校・Hwa Chong Institution 相互短期留学研究課題」の5分冊からなる。）

学 校 評 価（自己評価） 報 告 書（項目別表）

令和元年度

学校名

筑波大学附属高等学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-2-9	教育課程の編成・実施の管理の状況	<p>現教育課程についての教務部によってきちんと管理・運営された。</p> <p>新教育課程についてはカリキュラム委員会により教育課程案が確定した。</p>
12-1-3	大学、附属学校教育局と連携した施設・設備の安全・維持管理のための整備（耐震化、アスベスト対策を含む）の状況	<p>校舎の雨漏りに対して、学校教育局により屋上の防水工事が行われた。また、校内的には漏電や火災を防ぐために、延長コードをより安全性の高いものに変更した。しかし、校舎壁面からの雨漏りはじめ改善すべき箇所は少なくない。</p>
7-1-4	学校の財務運営の状況（資金の予算執行に関する計画、執行・決算・監査の状況等）	<p>財務運営は適正に行われた。保護者からいただいている教育環境改善経費による、今後数年間の施設・設備の更新に関する計画を立て、初年度分を実施した。</p>
7-1-5	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、服務監督の状況	<p>毎月の勤務状況申告書の提出を教員に義務づけた。UTOS システムの全面的な利用により若干の効率化が図られたが、scrap すべき仕事の洗い出しは不十分だった。</p>
10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	<p>ホームページの運営の改善は十分にはできなかったが、年度末の新型コロナウイルス対応においてはホームページが大きな役割を果たした。</p>
2-1-3	児童生徒の能力・適性等を発見するための工夫等の状況	<p>お茶の水女子大学附属高校との合同キャリア教育プログラムや本校卒業生を講師とする進路説明会により、生徒のキャリア意識を向上させることができた。</p>
11-1-1	学校運営への PTA（保護者）、地域住民の参画及び協力の状況	<p>PTA より、学校運営や学校の抱える諸問題の解決に関するアドバイスを受けることができた。学校評議員会についても、より学校の実態を知ってもらう形式に修正した。</p>
14-1-5	大学・附属学校教育局と連携した国際交流・海外派遣の取組	<p>SGH 指定期間に行っていた国際交流・海外派遣の取組は、教育長裁量経費等により無事継続することができた。また、附属坂戸高校が主体となっている WWL についても、連携校として行事に参加するなど協力した。</p>
7-1-6	各種文書や個人情報等の学校が保有する情報の管理の状況、また、教職員への情報の取扱方針の周知の状況	<p>学校の管理の不十分さゆえに、情報管理に関する問題を発生させた。</p>